

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞
(1月22日 午前10時現在)

平成24年1月22日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（停止中）

- 平成23年3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- 平成23年3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
平成23年12月10日午前10時11分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約4.5m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約1.8m³/時です。
- 平成23年4月7日午前1時31分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成23年8月10日午前11時22分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成23年10月28日、放射性物質の飛散を抑制する原子炉建屋カバーの設置工事が完了しました。
- 平成23年11月30日午後4時4分、原子炉压力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成23年12月19日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。

2号機（停止中）

- 平成23年3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- 平成23年3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
平成23年9月14日午後2時59分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約6m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約3.9m³/時です。
- 平成23年5月31日午後5時21分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成23年6月28日午後8時6分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成23年10月28日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。
- 平成23年12月1日午前10時46分、原子炉压力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成24年1月19日午前11時50分、使用済燃料プール塩分除去装置の運転を開始しました。

3号機（停止中）

- 平成23年3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- 平成23年3月25日午後6時2分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
平成23年9月1日午後2時58分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。

現在の注水量は給水系配管から約 5.1m^3 /時、炉心スプレイ系注水配管から約 3.8m^3 /時です。

- ・平成23年6月30日午後7時47分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・平成23年7月14日午後8時1分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・平成23年11月30日午後4時26分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- ・平成24年1月14日午後3時18分、使用済燃料プール放射性物質除去装置の運転を開始しました。

4号機（定期検査で停止中）

- ・平成23年3月15日午前6時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋5階屋根付近に損傷を確認しました。
- ・平成23年7月31日午後0時44分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・平成23年11月29日午前10時58分、4号機の使用済燃料プールにおいて塩分濃度を低減するためイオン交換装置の運転を開始しました。
- ・現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

5号機（定期検査で停止中）

- ・安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・平成23年3月19日午前5時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・平成23年7月15日午後2時45分、本設の残留熱除去海水系(B系)ポンプによる残留熱除去系(B系)の運転を開始しました。
- ・補機冷却海水系ポンプ(B)の復旧作業が完了したため、平成23年12月22日午前10時11分、試運転を開始し、同日午前11時25分、異常がないことを確認したため、本格運用を開始しました。
- ・現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

6号機（定期検査で停止中）

- ・安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・平成23年3月19日午後10時14分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・平成23年9月15日午後2時33分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々の系統による冷却を開始しました。
- ・現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

その他

- ・平成23年6月13日午前10時頃、2、3号機スクリーンエリアに設置した循環型海水浄化装置の運転を開始しました。
- ・平成23年6月17日午後8時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7月2日午後6時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを經由して原子炉へ注水する循環注水冷却を開始しました。
- ・平成23年8月19日午後7時41分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- ・平成23年10月7日午後2時6分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内

散水を、5、6号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。

- 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、平成23年10月28日、1～4号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- 平成23年12月13日午後0時25分、淡水化装置（逆浸透膜式）において、淡水化装置（逆浸透膜式）処理後の濃縮水発生量の抑制を目的とした、再循環運転による運用を開始しました。
- 集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕間のトレンチにおける放射性物質を含む溜まり水の発見（平成23年12月18日）を受け、平成24年1月11日、発電所構内のその他のトレンチ等の点検を開始しました。
- 平成24年1月21日午前9時5分から午後5時40分まで、3号機復水貯蔵タンクへの水張りを行いました。
- 平成24年1月20日午後3時37分、1号機タービン建屋地階から2号機タービン建屋地階への溜まり水の移送を開始しました。
- 平成24年1月20日午後3時23分、2号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕）への溜まり水の移送を開始しました。

1月21日午前7時2分頃、協力企業の作業員が、移送している配管から水が漏れいしていることを、4号機タービン建屋大物搬入口内にて発見しました。現場を確認したところ、配管の継ぎ手部から水が弁ユニット内に漏れいしており、一部が弁ユニット外の床面に滴下していることを確認しました。その後、同日午前7時48分、溜まり水の移送ポンプを停止し、午前7時55分、水の滴下が停止していることを確認しました。滴下した水はタービン建屋内に留まっており、海洋への流出はありません。なお、タービン建屋の床面に滴下した水の量は約2リットルであり、表面線量率は0.1mSv/時であり、高濃度の汚染水ではないと推定しました。また、今回漏れいした箇所は新たに設置された配管の継ぎ手部であり、当該配管敷設後の漏れい確認において、1号機立坑の水*を使用しており、内包された当該水が押し出され、床面に滴下したと推定しました。その後、午後1時58分から午後2時49分にかけて、溜まり水の移送配管のフラッシングを行い、漏れいがないことを確認しました。今後、ホースの交換を行う予定です。なお、漏れいの原因についてはホース接続部にホースの上に被せている遮へい材の負荷がかかりシール性が喪失して漏れいに至ったものと推定しました。現在、ホースの上に被せていた遮へい材は取り除いています。

* 1号機立坑の水：海水と雨水が混ざったものと推定しており、1月14日に測定した結果は下記の通り。

(I-131：検出限界値 $[1.7 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3]$ 未満、Cs-134： $1.8 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ 、Cs-137： $2 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$)

- 平成24年1月20日午後3時17分から1月21日午後2時18分まで、3号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕）への溜まり水の移送を行いました。

2号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕）へ溜まり水を移送している配管からの水の漏れいが発生したことから、類似箇所である継ぎ手部からの漏れい有無の確認を開始しました。午後2時30分頃、1箇所でのしみを確認（滴下はなし）しました。今後、溜まり水の移送配管のフラッシングを行った後、ホースの交換を行う予定です。なお、しみの原因についてはホース接続部にホースの上に被せている遮へい材の負荷がかかりシール性が喪失してしみに至ったものと推定しました。現在、ホースの上に被せていた遮へい材は取り除いています。

以上